Pichari ～ピチャリ～
七飯町歴史館だより
第114号

ななえ古写真物語

VOL.114

大沼の鮒

絵葉書「翠緑の大沼」より
昭和はじめ頃か？
大沼地区

七飯町は、昔も今も海を持たない町に変わりはないのですが、漁業が無いわけではありません。幸いにも、駒ケ岳の噴火によって景勝地となった大沼などの湖沼を利用して、漁業がおこなわれています。

本誌第48号でも「いかだ焼き」と題して、大沼で行われてきた内水面漁業の歴史について、触れていますが、今回は『翠緑の大沼』という絵葉書の中に、鮒釣りの様子が写されていたので、鮒について紹介したいと思います。

現在も湖畔を走ると、茂る青草の中に椅子をすえ、竿をたゆませている人影を見ます。その姿は太公望のようでもあり、せわしく観光にいそしむ人々とは対照的な印象をもちます。全てがそうとは言えないのでしょうが、彼らの目的は源五郎鮒の巨大変異したヘラブナです。静かな水面に視線を落とし、フナとの戦いを繰り広げる。「釣りはフナに始まりフナに終わる。」という言葉を思い出させてくれる風景です。

ところで、フナもワカサギと同様に、明治４年に開拓使によって移入されたものだといわれていますが、当時の資料が乏しく、誰の発案によるものなのかなど、詳細については調査の必要があります。

いずれにせよ、鯉などとともに、多くの魚族がこの時に放流され、その後、一時禁漁区とすることで、繁殖を図ったようです。また、昭和９年に発行された『大沼郷土誌』に、「鮒は繁殖力大にして且つ強壮なれども其の成長鯉に劣る。（中略）今後大いに此の繁殖を計る必要あり」と記されていることや、昭和２年から４年にかけて琵琶湖から源五郎鮒1,200尾を大沼三湖に放流したという記録があることから、昭和初期には、繁殖に力を注いでいたことがうかがえますし、そういった中で、鮒雀焼きや甘露煮、粕漬け、鮒パンなどの加工品が、大沼の特産品として知られるようになったのでしょう。

ところが、長引く戦争による労働力不足や漁獲量の減少のため、大沼での漁業は衰退をたどったといいます。戦後の資料も少なく、その後、現在に至るまでの歴史は、今後の課題となっています。

大沼では毎年５月頃になると「大沼へら鮒釣り大会」が開かれています。大きいものでは50㎝クラスのものが釣れるそうです。琵琶湖から移入した源五郎鮒の子孫とは考えにくいでしょうが、竿を投げながら大沼の鮒の歴史に思いを馳せて頂ければ嬉しいです。

日進月報

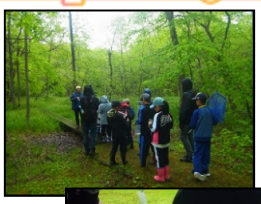
＜2017. 5＞

7日

春の探鳥会を大沼で行いました。天候にも恵まれ、早朝の大沼の空気や風を感じて、スタートしました。早起きな鳥の居場所にお邪魔をし、およそ４０種の鳥を見つけることができました。探鳥会は例年行われますが、鳥を探す以外にも、周辺の花々や他の生き物のお話しなどを講師の方々から聞くことができます。また参加されるお客様から教えて頂くことも。こうした毎回少しずつ異なる春の探鳥会。今回参加できなかった方も、次回機会があれば、ぜひご参加下さい。

27日

５月のジュニア探検クラブは「水の生き物しらべと野鳥観察」。悪天候で野鳥観察は行えなかったのですが、大沼セミナーハウス周辺で、どんな生き物が生息しているかを調べました。調査員の子ども達は用意したケースに捕まえた生き物を入れ、図鑑などを使い、同定をしていきます。これがなかなかの難儀で、苦労した子どもたち。その後講師の金澤氏から生き物の環境にまつわる話を聞き、最後は駒ケ岳神社へ。圧倒される大きな岩とまつわる歴史を感じ、帰路。疲れを見せない子ども達、さすがです。



野草園の新顔たち

野草園には今年、新たな花々が増えました。七重官園で育成されていたという「アワ」「金魚草」「ガンコウラン」、「アカネ」、また鉢植えにして玄関に置いてある「ジンチョウゲ」季節を通して様々な植物が見られる野草園は、道行く人が、足を止めていく場所でもあります。時折花の名前や育て方を尋ねられたり、実の活用法を教えて頂いたりと、植物談義に発展することも。初めて挑戦する花は、何かと失敗がつきものですが、根づいていく様子をみる時間経過もまた楽しいものです。

編集後記　～tawagoto～

蝦夷梅雨とでもいうのでしょうか。ここ最近の天候は、スッキリと晴れず冷たい雨が降り注ぐ日々が続いている。わずかに晴れ上がる時には、春蝉の声があたりに響くのですが、気温は低いまま。植物たちには恵みの雨といったところなのでしょうが、何となく気が晴れないと感じるのは、私だけではないと思います。しかも、気づくと当館の周りの芝があっという間に伸びている始末。どうやら、当館の草刈り隊の出番のようです。　（やまだひさし）

7月の予定

1	土	
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	
6	木	
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	
12	水	夜の博物館
13	木	
14	金	
15	土	駒ケ岳の植物観察会
16	日	
17	月	海の日
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	
23	日	
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	ジュニア探検クラブ
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	

※７月の休館日はありません

アサガオ

今年は４種の朝顔のグリーンカーテンに挑戦中。種まきから空を仰ぐ日まで、ひと夏の旅です。

Pichari ～ピチャリ～

第１１４号

平成２９年６月２０日発行

七飯町歴史館

〒041-1193　亀田郡七飯町本町６丁目１－３

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp